



本公司は、新型コロナウイルス
感染拡大の防止策、感染リスク
の低減策を実施いたします。
皆さまのご理解とご協力をお願
いいたします。



STAFF

舞台美術・人形制作 横山てんこ
衣裳 井上のぞみ(舞踏団ねねむ)
照明 工藤真一(有限会社ユニークブレーン)
演出助手 外波山流太
題字 和田祥吾(みやざき○まあるい劇場)
宣伝美術 笠原真志(風煉ダンス)
協力 風煉ダンス／劇団こふく劇場／濱砂崇浩／富森慧子

主催 THEATRE CARAVAN!!! 河内哲二郎 / 公益財團法人 宮崎県立芸術劇場
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER

■チケット料金(税込み)

<全席自由>一般**2,500円**、U25割**1,500円**、高校生以下**1,000円**、小学生無料(※要予約)

※ 就学前のお子様の入場はご遠慮ください。

※ 車椅子・介助席は、窓口・電話での取扱いとなります。

※ U25割および高校生以下は、入場時に年齢の確認ができる身分証の提示をお願いする場合があります。

■チケット発売日

9月12日(日) 一斉発売 WEBからのチケット購入はこちら ▷



■チケット取扱窓口

メディキット県民文化センター チケットセンター

TEL 0985-28-7766

[窓口・電話受付] 午前10時～午後6時30分／月曜休館(月曜が祝日の場合は翌平日休館)

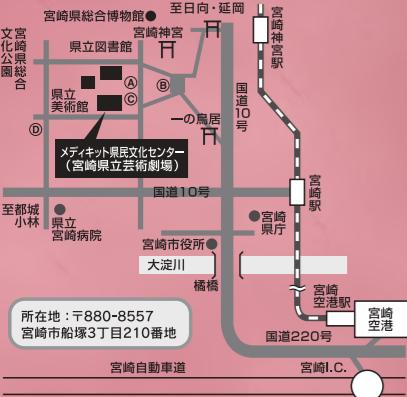
[WEB] 劇場HPで24時間予約・購入できます。

■お問い合わせ

TEL 080-5477-5888(カワチ)

tetsukawachi@gmail.com

○交通のご案内



○託児サービスについて(対象:生後6か月～12歳まで)

本公演では託児サービスをご利用いただけます。(料金:お子様ひとりにつき1,000円(税込み))

申込みは、公演日の1週間前までとなります。なお、キャンセルされる場合は公演日の3日前までにご連絡ください。

*申込先 | NPO法人みやざき子ども文化センター

TEL 080-4694-8686 受付:月～金10:00～18:00(土・日・祝休み)

●宮崎交通バス(橋通方面から)

- Ⓐ「文化公園」行き 終点「文化公園」下車→徒歩1分
- Ⓑ「宮崎神宮」行き 終点「宮崎神宮」下車→徒歩5分
- Ⓒ「国富・綾」「平和ヶ丘」または「古賀総合病院」行き 「文化公園前」下車→徒歩5分
- Ⓓ「平和台」行き 「霧島3丁目」下車→徒歩4分

メディキット県民文化センターには専用の駐車場はありません。お越しの際は、公共交通機関をご利用ください。

●JR日豊本線

・「宮崎駅」から: タクシー約10分 ・「宮崎神宮駅」から: タクシー約5分・徒歩約20分

●高速道路

・宮崎自動車道「宮崎IC」から国道220号を「延岡・宮崎」方面へ車で約20分

・東九州自動車道「宮崎西IC」から国道10号を「宮崎市内」方面へ車で約15分

●宮崎空港

・タクシー 約30分 ・バス(宮崎市街方面行き「橋通3丁目」乗り換え)約40分

●その他(延岡方面から)

・車で国道10号を宮崎神宮・平和台方面に向かって南下



THEATRE CARAVAN!!!

2022年 1月26日(水)・27日(木)

各日 19:00 開演(開場は開演の30分前)

メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)

演劇ホール 舞台上舞台

「寿歌」に寄せて

昨年の年初に、「芝居を作つて、高松にもってきてみないか」と恩師夫妻に説きを受けて、その時に
真っ先に思いついたのが、『寿歌』だった。

リヤカー1台に全てを詰め込んでさまよい歩く旅芸人の一団。その姿とこれから
の自分たちの生きていく姿を重ねてしまったのだ。しかし、やがてコロナ禍がやってきて計画は頓挫し、
その間に自分には初めての子供が産まれ、そして説いてくれた恩師はこの春、天へ旅立たれた。めぐり
めぐって、自分の生まれ育った宮崎の地で、この旅は再出発することになった。素晴らしい
仲間たちとこの旅を始められることに感謝します。

THEATRE CARAVAN!!! 河内哲二郎

THEATRE CARAVAN!!!

河内 哲二郎

(演出・ゲサク役)

宮崎県宮崎市出身。大学時代にテント芝居から演劇を始め、劇団黒テントに
10年間在籍後、フリーに。近年は演劇集団「風煉ダンス」などを中心に活動。
演出・俳優のほか、舞台監督などスタッフとしてもキャリアを積む。
宮崎県立芸術劇場プロデュース「新 かほちやといもがら物語」
#1『板子乗降臨』#2『神舞の庭』#4『幻視』に出演、またシリーズを通して
宮崎弁指導をつとめる。
2018年北九州芸術劇場プロデュース『せなに泣く』に出演。



堀井 政宏

(ヤスオ役)

静岡県浜松市出身。2002年、大学卒業と一緒に劇団東京乾電池研究所に入所、演劇活動を始める。翌年、劇団東京乾電池に正劇団員として入団、
2008年退団。退団後はフリーの役者として様々な劇団、映像作品へと活動の場を広げる。2019年、新たなチャレンジとして劇団わからんちゃんを立ち上げ、主宰をつとめる。
近年の主な出演作に、風煉ダンス『まつろわぬ民』『野外劇 魚人喜譚』、流山児童劇場『オケハザマ』、映画『カツベン』(周防正之監督)など。



吉田 佳世

(キョウコ役)

兵庫県たつの市出身。演劇集団アクト青山にて故・渥美國泰氏に師事。
UPS(アップス)アカデミーにてメソッドを学ぶ。
その後はフリーの役者として、演劇集団「風煉ダンス」、「発見の会」、せんがわ
劇場プロデュース公演などに参加。
2019年、「劇団わからんちゃん」の旗揚げメンバーに加わる。
近年の主な出演作に、発見の会『二重瞼の母』、シアターモーメンツ『幸福な
王子』、風煉ダンス『まつろわぬ民』『路上劇 MICHI(主演)』など。



「寿歌」あらすじ

核戦争すべてが廃墟と化した、ある関西の地方都市。家財道具をリヤカーに積んで、旅芸人のゲサクとキョウコがやって来る。戦争は終わったというのに、2人の頭上には残りもの核ミサイルが花火のように光を放ちながら飛び交っている。そこに、ヌッと現れたのはみすぼらしいなりしたナゾの男、ヤスオだ。魔訝不思議な芸をあやつるヤスオも加わって、3人は焼きつくされた滅びの荒野を旅することになる。ええかげんな芸と会話を繰り広げながら、彼らはどこに向かうのだろうか――。

※「寿歌」著作権認可番号: So Kitamura 2021 No. 0001 岡野宏文

良心の人

「てっちゃん」と河内哲二郎君は、「良心の人」である。良心に体を張る人である。そこに情熱や思いがあれば、他人のためにも喜んで体を張る。俳優としても、演出家としても、舞台監督としても。

だから、情熱や思いのないふるまいには、憤りを隠さない。規則やマニュアルや上位の者へ従うことが蔓延する現代に、数少なくなった自分の「良心」に従う人である。

そんな「てっちゃん」が、現代演劇の名作「寿歌」を音楽劇として上演するらしい。きっと、熱く、そしてどこまでも優しい舞台になるだろう。どうか多くの方に、その空間に身を置いてみて欲しいと強く願うのだ。

永山智行 (劇団こふく劇場)



堀井 次実

(モノ遣い)

人形劇を革新したチエコの人形・舞台美術家ペトル・マターセク氏を招き開催されたオブジェクトシアターWS「人形演劇プロジェクト2000」で、「モノ」の表現を学ぶ。その後「チバドロ・アノ」を結成。岡本芳一氏(百鬼どんどう)作品に出演。人形遣い黒谷都に師事し、genre:Grayの遣り方を共に探りつつ、作品に出演。「モノ遣い」と名乗り、他ジャンルとの協働の場を広げている。

高橋 芙実

(舞踊)

香川県出身。大学在学中に舞踊家松原東洋に師事。2011年より舞踊団「トンデ空静(とんでからしづか)」に参加。主に野外舞台公演に出演。2016年ソロ公演「フェヲオモウ」を発表。舞踊家 点滅が主宰する「B機関」に踊り手として参加し、演劇の場へ活動を広げる。2019年より「渡さ知らずオーケストラ」に舞踊手として参加。また絵画や版画の作品制作もする。

辰巳 光英

(音楽・演奏)

ラップ1本持つてどこへでも飛んで行く無重力トランペッター。渡さ知らず、ゴジラ伝説 仙波清彦 & カルガモーズなどで活動、国内外のツアーやフェスにも多数参加。あらゆる音楽の場で音の核を担っている。自らメインユニットThe Space Baaを率いる。『バッカーノ』『デュラララ』等のアニメやドラマサントラ、風煉ダンス演劇公演『まつろわぬ民』等々にも無重力に参加。

関根 真理

(音楽・演奏)

千葉県出身。バーカッシュニスト。2000年より「渡さ知らず」に参加。他に西川郷子(ex.上々颶風)「星ノ飛ブ夜」、打楽器集団「Orquesta Nudge! Nudge!」などで活動中。2017年初のソロ音源『midori/ao』、2018年『Beginning』を発表。演劇では串田和美演出『コーカサスの白墨の輪』(2005年)以降、数多くの公演に参加。宮崎県立芸術劇場主催トライアル・シアター2019『ベイビーさん』では構成・演出・音楽もつとめた。